

## 金井 弘 夫\*: ヒメマイズルソウの分布と変異

## 日本植物の分布型に関する研究 (2)\*\*

Hiroo KANAI\*: Distribution and differentiation of *Maianthemum bifolium* in Japan

Study on the distribution patterns of Japanese plants (2)

ヒメマイズルソウはユーラシア大陸の北部に点々と分布し、日本では北海道と本州中部にきわめて稀に見られる<sup>1)</sup>。

この植物は花梗や葉柄に細毛があり、特に葉縁細胞が鋸歯状をしているので、無毛で低平な葉縁細胞をもつマイズルソウと区別がつく。しかし稀にしか採集されないので、以前はマイズルソウの小型品と混同されていたことがあり、文献による産地は再検討を要する。

奥山氏<sup>2)</sup>は既に、ヒメマイズルソウの北海道、樺太産のものは葉縁細胞が鋸歯状で歐洲のものと同じであるが、本州のものは毛状をしていて異なることを述べている。私も最近両者を比較する機会があったので、このことについて記しておく。

Fig. 1. a と b は本州のほとんど同一の産地の標本によるマイズルソウとヒメマイズルソウの葉縁である。これによるとマイズルソウの葉縁は低平な細胞のみから成るが、ヒメマイズルソウはやゝ小形の低平な細胞の間に、毛状の細胞が数個おきに生じている。一方 Fig. 1. c は北海道産のヒメマイズルソウであるが、細胞はすべて鋸歯状になっている。そしてこれは Fig. 1. d および e に示したヨーロッパ産のものと同一といえよう。

本州産のものはいずれも毛状の葉縁細胞を持ち、Fig. 2 のようなまばらなものから、もっと混み合ったものまで見られる。そして北海道のものは Fig. 1. c の状態である。しかし葉縁細胞が長くなる型は日本以外にも存在し (例 Fig. 1. f), 所によっては同じ産地で両型が見られる。(例: Komarov, Fl. Mansh. No. 405, TI; T. Nakai, M. Honda, & M. Kitagawa, Jehol, 長山峪, Sept. 13, TI)。

以上のことから、ヒメマイズルソウは葉縁細胞の形や分布から見て、日本では地域的に分化しているといえそうだが、他の地域ではどうなっているか資料が不足である。従

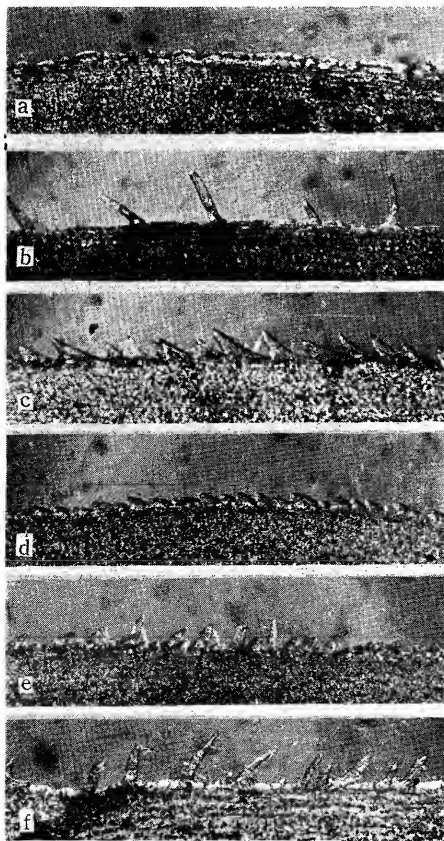
\* 東京大学理学部植物学教室。Botanical Institute, Faculty of Science, University of Tokyo.

\*\* 文部省科学研究費による研究。

1) H. Hara & H. Kanai: Distribution Maps of Flowering Plants in Japan 2: map 198 (1959).

2) S. Okuyama: Journ. Jap. Bot. 11: 51 (1935),

って命名上の区別は、広い地域にわたる変異が明らかになるまで一応保留する。



この資料は東大、科博、北大、茨城大の標本によった。観察は花をもつ個体の成葉の葉身の幅の最も広い部分の側面を用いた。葉の先端と基部では時によって細胞の状態が違っている。

最後に北大の標本を見て下さった河野昭一氏、茨城大の標本を貸与された鈴木昌友氏に厚く御礼申し上げる。

附記。鈴木昌友氏は「フロラ茨城」8巻1頁(1960)に、茨城県入溝山の産地を報告されているが、これは本州での確かな北限産地である。

Fig. 1. a. *Maianthemum dilatatum*: Kagikake Pass, Nishihama-mura, Minamitsuru-gun, Yamanashi Pref., Honshu, Japan. June 22, 1958, H. Kanai (86221). b. *M. bifolium*: Between Kagikake Pass and Mt. Onigatake, Nishihama-mura, Minamitsuru-gun, Yamanashi Pref., Honshu, Japan. June 22, 1958, H. Kanai (86224). c. *M. bifolium*: Mt. Daisetsu, Ishikari Prov., Hokkaido, Japan. Aug. 1928, T. Nakai (29081). d. *M. bifolium*: Polonia meridionalis; Tunel, distr. Miechów. 17 May 1952, S. Myczkowski (D). e. *M. bifolium*: Scandinavia; Dlr. Siderbarkes Kyrkoby. 22 June 1891. Sven Persson (A). f. *M. bifolium*: Finland; Savonia borealis, par Jorois, Jarvikylä. 17 June 1894, Vivi Lindberg (B).  $\times 26$ .

### Résumé

*Maianthemum bifolium* F. W. Schmidt is differentiated in Japan into two forms; i.e. one bearing ciliate leaf-margin (Fig. 1. b) is distributed in Honshu, and another bearing serrate one (Fig. 1. c) in Hokkaido and northwards. Both forms, however, seem to be growing mixed outside of Japan.

	正	誤	Errata
ページ page	行 line	誤 for	正 read
126	8	<b>Tovala</b>	<b>Tovara</b>
184	1	沢田謙吉氏	沢田兼吉氏